

講義

生活と支援の実際

就労継続支援B型事業所の例から

1

高次脳機能障害の主な症状

注意障害

記憶障害

遂行機能障害

社会的行動障害

この講義でお話すること

- ・地域生活においてどのように現れるのか?
- ・どのように支援するのか?

就労継続支援B型事業所の例から

2

障害者総合支援法における就労系障害福祉サービス

	就労移行支援事業	就労継続支援A型事業	就労継続支援B型事業
目的	一般企業での就職を目指す障害者が本人の適性にあった職場への就職と定着を目指して行われるサービス	支援を受けながら働くための訓練を受けることができるサービス。就労の機会の提供および生産活動の機会を提供	支援を受けながら働くための訓練を受けることができるサービス。就労の機会の提供および生産活動の機会を提供
雇用契約	なし	あり	なし
賃金	基本なし	給与が発生	工賃が発生
年齢制限	65歳未満	65歳未満	制限なし
利用期間	原則2年以内	定めなし	定めなし
利用実人員(※1)	4.0万人	8.6万人	33.2万人
特徴	一般就職に向けたトレーニング、就職支援	一般企業で働くことが困難な65歳未満の人に働く場と機会を提供。ある程度の就業能力が必要	状態に合わせて作業内容、ペースの調整ができる 自分のペースで働ける場や居場所を提供し、さまざまなニーズを支える。

※1 厚生労働省 令和元年社会福祉施設等調査

3

就労継続支援B型事業所の活動スケジュール

一日の流れ(月曜～金曜)

10時 掃除
朝の会(体調・連絡事項・作業予定の確認)
作業(利用者の状況に合わせて個別・グループ作業、日により作業内容が異なることもあり) ※途中休憩あり

12時 昼休み

13時 作業(利用者の状況に合わせて個別・グループ作業、日により作業内容が異なることもあり) ※途中休憩あり

掃除
終わりの会(一日の振り返り、連絡事項、予定の確認)

16時 終業

4

高次脳機能障害者が事業所で取り組んでいる作業

札幌市内就労継続支援B型事業所における高次脳機能障害者のサービス利用の現状と課題(青木、2019)

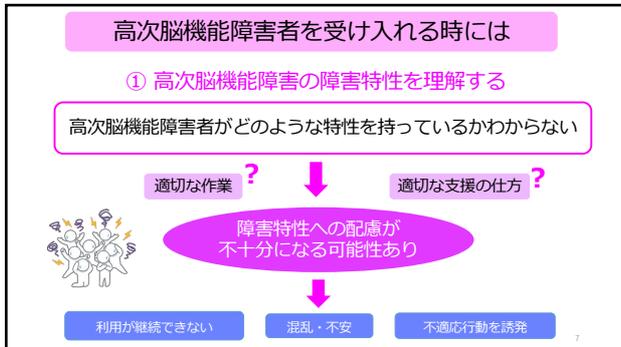
5

作業時における高次脳機能障害者の問題

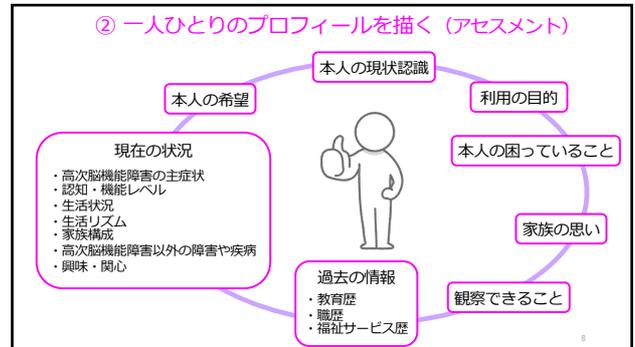
障害の種類	問題	よくある	たまにある	ほとんどない	未回答
注意障害	気が散りやすい	45	35	15	5
	一つのことに集中できない	45	35	15	5
記憶障害	同時に複数のことに注意を向けられない	45	35	15	5
	新しいことが覚えられない	45	35	15	5
遂行機能障害	時間がたつと作業の手帳など思い出せない	45	35	15	5
	課題や仕事を正しに行わずで終わってしまう	45	35	15	5
社会的行動障害	他人に注意されると怒ってしまう	45	35	15	5
	人間関係がうまくいかない	45	35	15	5
病識欠如	指示がないと動かない	45	35	15	5
	人や作業に無関心	45	35	15	5
病識欠如	すぐに寝る	45	35	15	5
	昼うつ	45	35	15	5
病識欠如	不安を抱えやすい	45	35	15	5
	継続して通所できない	45	35	15	5
病識欠如	病識を持っていない	45	35	15	5
	病識を持っていない	45	35	15	5

札幌市内就労継続支援B型事業所における高次脳機能障害者のサービス利用の現状と課題(青木、2019)

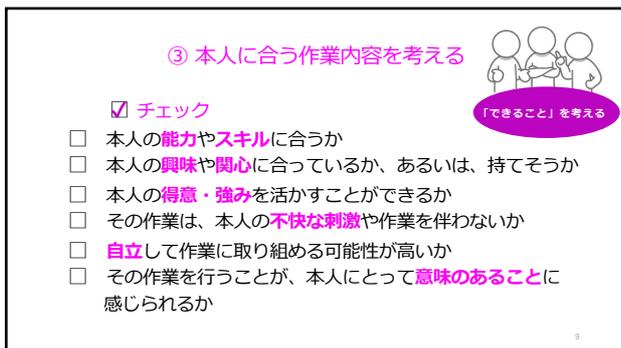
6



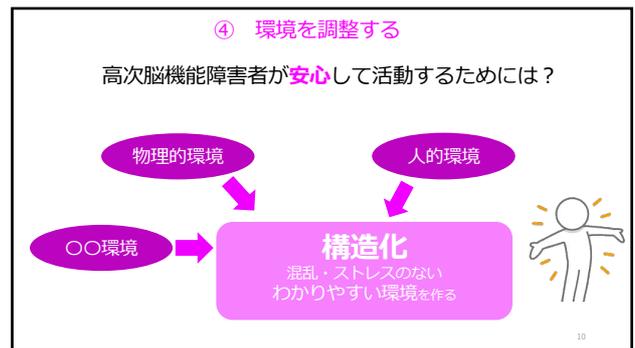
7



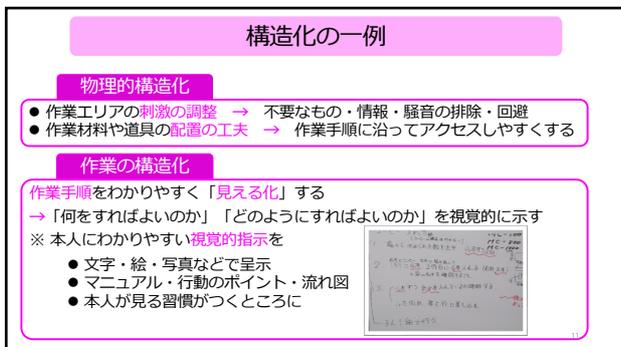
8



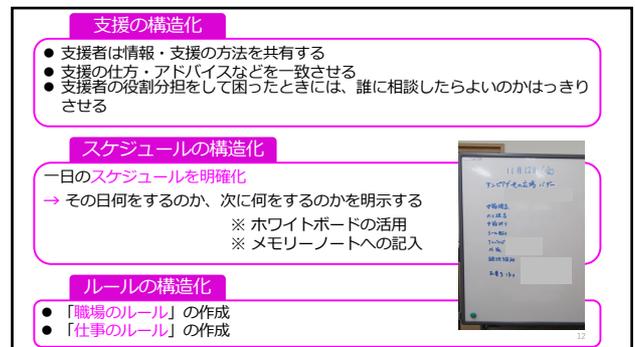
9



10



11



12

就労継続支援B型事業所における高次脳機能障害者への支援の実際 (青木, 2019)

作業指示	繰り返し (12件) 声かけ (2件) スモールステップ (5件) メモの作成 (3件) 本人の意思尊重 (3件) モデリング (4件) 手順の視覚化 (2件)
物理的配慮	個人空間作り (6件) 人・モノの固定 (4件) 事故予防 (5件) 作業道具の工夫 (1件) 集中しやすい環境作り (1件)
心理的配慮	不安軽減 (3件) 対人関係の調整 (2件) こだわりの回避 (1件) 細かな確認 (2件)
個別配慮	細かな休憩 (2件) 通所日数の調整 (1件)
家族との連携	家族との連携 (1件)
その他	他者からの理解促進 (1件)

忘れてはいけない!

疲れやすさへの配慮を

13

作業を教える技術
—システムティック・インストラクション— (小川, 2017)

○課題分析 (作業手順を行動単位に整理) に沿って

スモールステップ

① 言語指示 「～をしてください」と言葉で指示する

② ジェスチャー 作業の仕方を身振り、手振りで示す

③ モデリング 実際に作業を行って見せる

④ 手添え 手を添えて作業の仕方を伝える

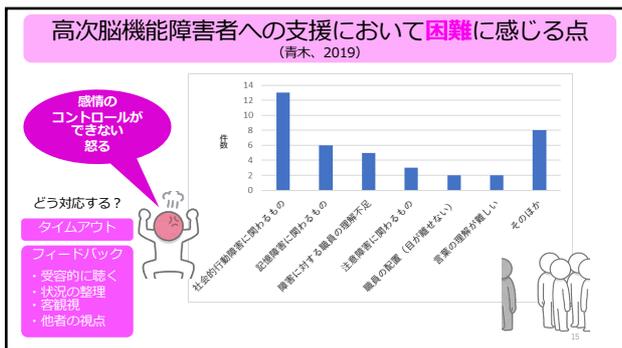
集中できる環境
理解できる言葉
本人のペースに合わせて
× 一度に複数

この4段階を使い分けて教える

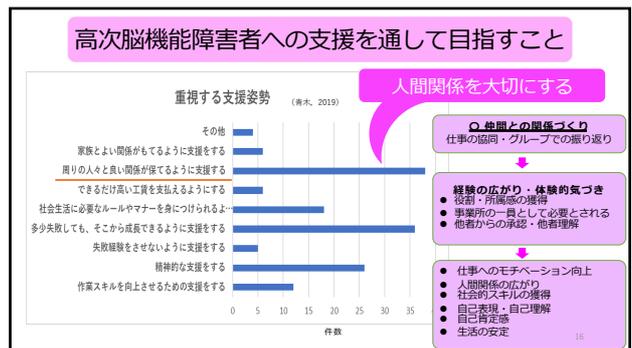
できたら「ほめる」・間違えたらその場で修正する

フィードバック

14



15



16

高次脳機能障害者への支援を通して目指すこと

働くモチベーションを維持する

高次脳機能障害者が働くことは

① 生活の安定
② 居場所の獲得
③ できることを増やす
④ 社会的スキルの獲得
⑤ 人間関係の広がり
⑥ 社会・地域生活への参加
⑦ 自己理解につながる
⑧ 障害への気づき
⑨ 自己肯定感を育む
⑩ 未来への展望を持つ

① 環境調整のアップデート
② 本人の能力と作業が合っているか
③ 興味・やりがいを感ぜられるか
④ 工賃を得られるか
⑤ ねぎらいや励まし・他者からの承認を得ているか
⑥ 所属感を得られるか
⑦ 自分の役割を感じられるか
⑧ 仕事の達成感を感じられるか
⑨ 自己表現ができていくか
⑩ ストレスが軽減されているか

17

◎ 厚生労働科学研究：高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者養成研修カリキュラム及びテキストの開発のための研究班

18